

# Asia Indicators

発表日: 2021年1月29日(金)

豪州のインフレ率は引き続き目標を下回る展開 (Asia Weekly(1/22~1/29))

~ニュージーランド、経済活動の再開を反映して輸入底入れの動きが強まる~

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
 主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522)

## ○経済指標の振り返り

| 発表日     | 指標、イベントなど                  | 結果     | コンセンサス | 前回     |
|---------|----------------------------|--------|--------|--------|
| 1/22(金) | (台湾) 12月失業率(季調済)           | 3.76%  | --     | 3.77%  |
| 1/25(月) | (シンガポール) 12月消費者物価(前年比)     | +0.0%  | ▲0.1%  | ▲0.1%  |
|         | (台湾) 12月鉱工業生産(前年比)         | +9.9%  | --     | +7.6%  |
| 1/26(火) | (韓国) 10-12月実質 GDP(前年比・速報値) | ▲1.4%  | ▲1.7%  | ▲1.1%  |
|         | (シンガポール) 12月鉱工業生産(前年比)     | +14.3% | +11.5% | +18.7% |
|         | (香港) 12月輸出(前年比)            | +11.7% | --     | +5.6%  |
|         | 12月輸入(前年比)                 | +14.1% | --     | +5.1%  |
| 1/27(水) | (豪州) 10-12月消費者物価(前年比)      | +0.9%  | +0.7%  | +0.7%  |
|         | (タイ) 12月製造業生産(前年比)         | ▲2.44% | ▲1.20% | +0.15% |
| 1/28(木) | (フィリピン) 10-12月実質 GDP(前年比)  | ▲8.3%  | ▲8.5%  | ▲11.4% |
|         | (ニュージーランド) 12月輸出(億 NZドル)   | 53.5   | --     | 52.1   |
|         | 12月輸入(億 NZドル)              | 53.3   | --     | 49.2   |
| 1/29(金) | (マレーシア) 12月輸出(前年比)         | +10.8% | +6.6%  | +4.6%  |
|         | 12月輸入(前年比)                 | +1.6%  | ▲2.9%  | ▲9.0%  |

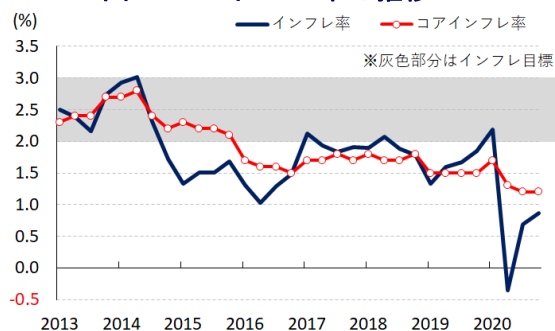
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

## [豪州]~経済活動の再開の動きの一方、豪ドル高による輸入物価の下振れも重なりデイスインフレ基調が続く~

27日に発表された昨年10-12月の消費者物価は前年同期比+0.9%となり、前期(同+0.7%)から伸びが加速したものの、中銀(豪州準備銀行)が定めるインフレ目標(2~3%)を下回る推移が続いている。前期比も+0.86%と前期(同+1.57%)から上昇ペースが鈍化しており、国際原油価格の底入れが進んでいるにも拘らずエネルギー価格は下落傾向が続いている一方、生鮮品を中心とする食料品価格は上昇に転じるなど、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの状況にある。なお、同国ではトリム平均値ベースのインフレ率をコアインフレ率としているが、当期は前年同期比+1.2%と前期(同+1.2%)と同じ伸びで推移しており、インフレ率とともに中銀の定めるインフレ目標を下回る推移が続いている。前期比は+0.4%と前期(同+0.3%)からわずかに上昇ペースが加速しているものの、新型コロナウイルスの感染収束を受けた経済活動の再開の動きなどを反映してサービス物価に押し上げ圧力がくすぶる一方、輸送コストの鈍化を反映して財価格に下押し圧力が掛かる展開が続いているほか、通貨豪ドル相場の上昇に伴う輸入コストの下振れもデイスインフレ圧力に繋がっている。中銀は景気下支えの観点

から異例の金融緩和を維持する姿勢を示しているが、足下のインフレ率は依然として目標を大きく下回る推移が続くなかで、先行きもしばらくは緩和姿勢を維持する可能性が高いと見込まれる。

図1 AU インフレ率の推移

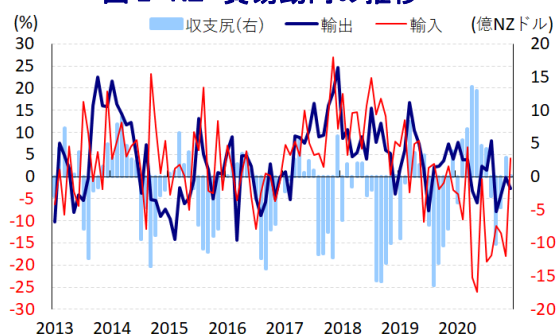


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [ニュージーランド]～アジア向け輸出の底入れに一服感の一方、経済活動の正常化で輸入の底入れが進む～

28日に発表された昨年12月の輸出額は前年同月比▲2.7%と4ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月(同▲0.1%)からマイナス幅も拡大した。前月比も▲2.5%と前月(同+4.3%)から3ヶ月ぶりの減少に転じており、中期的な基調も減少傾向となるなど底入れが続いてきた流れに一服感が出ている。財別では、食肉関連や木材関連のほか、国際原油価格の底入れの動きを反映して原油関連の輸出額に押し上げ圧力が掛かる一方、主力の輸出財である乳製品関連の輸出額が大きく減少したことが重石になっている。国・地域別では、隣国豪州向けのほか、米国やEUなど先進国向けに堅調さがうかがえる一方、中国をはじめとするアジア新興国向けに底入れの動きに一服感が出ていることが輸出全体の重石になっている。一方の輸入額は前年同月比+4.2%となり、前月(同▲18.0%)から9ヶ月ぶりに前年を上回る伸びとなった。前月比も+7.9%と前月(同▲3.2%)から2ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど輸出と対照的に底入れの動きが続いている。国際原油価格の底入れの動きを反映して原油や石油製品関連の輸入額が押し上げられているほか、機械製品関連や電気機械関連など幅広い分野で拡大しており、新型コロナウイルスの感染収束に伴う経済活動の正常化の動きを反映している。結果、貿易収支は+0.17億NZドルと前月(+2.90億NZドル)から黒字幅が縮小した。

図2 NZ 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

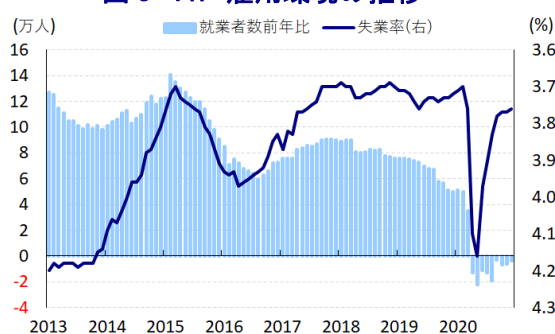
### [台湾]～外需関連を中心に生産底入れの動きが一段と進むなか、サービス業などを中心に雇用も底入れ～

22日に発表された昨年12月の失業率(季調済)は3.76%となり、前月(3.77%)から0.01pt改善し

た。失業者数は前月比▲0.1万人と前月（同+0.0万人）から2ヶ月ぶりに減少しているほか、中期的な基調は引き続き拡大傾向で推移するも、そのペースは鈍化傾向を強めるなど頭打ちしている。新卒者を中心に失業者の減少が続いているほか、既卒者でも頭打ちの様相が強まっている上、事業停止及び廃業に伴う失業者数が頭打ちの動きを強めるなど、雇用を取り巻く環境に改善の動きがうかがえる。一方の雇用者数は前月比+0.2万人と前月（同+0.2万人）から2ヶ月連続で拡大している上、中期的な基調は減少傾向で推移するも、そのペースは縮小傾向を強めるなど底入れが進んでいる。分野別でも、IT関連をはじめとするサービス業のほか、公共投資の拡充による景気下支えを反映して建設業で堅調な動きが続いているほか、依然として大幅な減少が続く製造業においてもそのペースが縮小傾向を強めるなど底入れの動きが進んでいる。

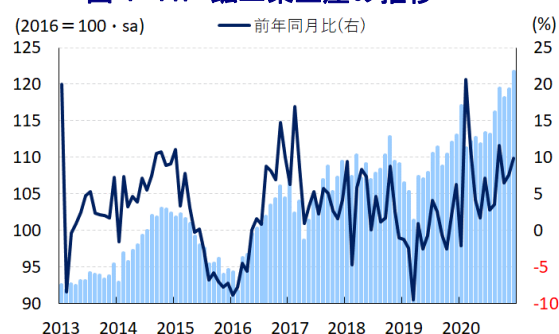
25日に発表された昨年12月の鉱工業生産は前年同月比+9.9%となり、前月（同+7.6%）から伸びが加速した。前月比も+1.93%と前月（同+1.07%）から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向を強めるなど底入れの動きが一段と進んでいる。主力の輸出財である半導体や液晶など電子部品関連で生産拡大の動きが続いているほか、機械製品関連の生産も堅調な推移をみせている上、様々な財の生産に必要な素材及び部材関連の生産も拡大傾向を強めるなど、幅広い分野で生産拡大の動きが広がりをみせている様子がうかがえる。

図3 TW 雇用環境の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図4 TW 鉱工業生産の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

### [シンガポール]～景気の不透明感はデysinフレ圧力となる一方、外需の回復期待は生産を押し上げる展開～

25日に発表された昨年12月の消費者物価は前年同月比+0.0%となり、前月（同▲0.1%）から10ヶ月ぶりにマイナスを脱した。前月比も+0.36%と前月（同+0.40%）から2ヶ月連続で上昇しており、国際原油価格の底入れの動きを反映してエネルギー価格の上昇が続いているほか、生鮮品を中心とする食料品価格も上昇傾向で推移するなど、生活必需品の物価上昇圧力の高まりを反映した動きが続いていることが影響している。食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は▲0.28%と11ヶ月連続のマイナスで推移しており、前月（同▲0.08%）からマイナス幅も拡大している。前月比は+0.10%と前月（同+0.03%）から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れを反映して一部の消費財価格に押し上げ圧力が掛かる動きがみられる一方、主要国における新型コロナウイルスの感染再拡大による世界経済の減速懸念の高まりに伴う雇用環境への悪化懸念を反映してサービス物価は伸び悩む動きが続くなど、デysinフレ基調が強まる展開となっている。

26日に発表された昨年12月の鉱工業生産は前年同月比+14.3%となり、前月（同+18.7%）から伸

びが鈍化した。ただし、前月比は+2.39%と前月（同+7.53%）から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが一段と進んでいる。同国では、月ごとのバイオ・医薬品関連の生産が大きく振れる傾向がある上、生産全体の動向を左右するなか、当月は前月比▲31.73%と前月（同+18.88%）から2ヶ月ぶりに大きく下押し圧力が掛かるなど、拡大が続いた流れに一服感が出ている。結果、バイオ・医薬品を除いたベースでは前月比+8.16%と前月（同+5.64%）から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを一段と強めている。主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、化学製品関連、機械製品関連など輸出関連産業を中心に堅調な動きが続いており、世界経済の回復期待が生産を押し上げている様子が見えてくる。

図5 SG インフレ率の推移

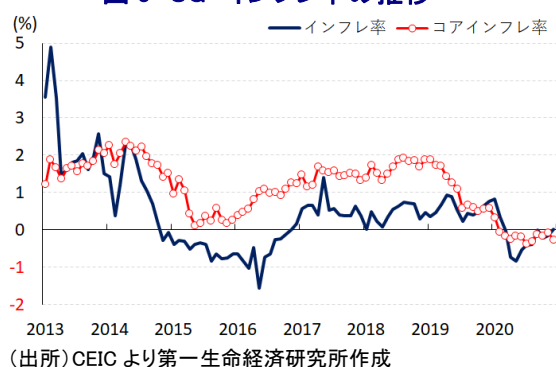
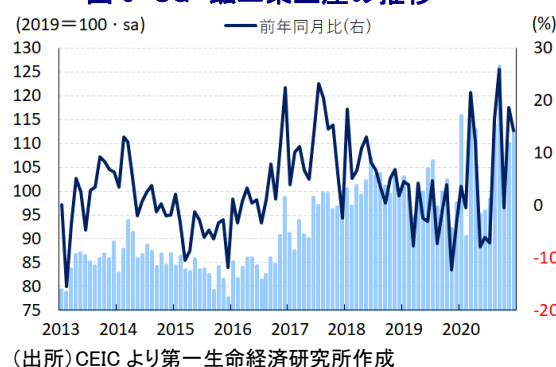


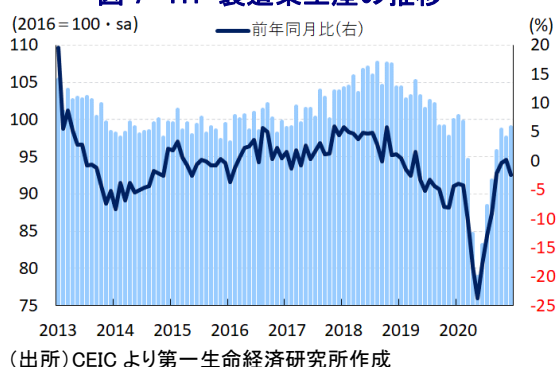
図6 SG 鉱工業生産の推移



#### [タイ]～軽工業関連の生産に底堅い動きがみられる一方、輸出関連産業で生産が鈍化する対照的な動き～

27日に発表された昨年12月の製造業生産は前年同月比▲2.44%となり、前月（同+0.15%）から2ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じた。ただし、前月比は+1.50%と前月（同▲1.18%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。分野別では、食料品や縫製品をはじめとする軽工業関連で堅調な動きがみられるほか、世界的な医療関連の需要を背景に化学製品関連なども底堅く推移している一方、主力の輸出財である自動車をはじめとする機械製品関連や、半導体などの電子部品関連、電気機械関連などで下押し圧力が掛かるなど、輸出関連産業で弱含みする動きがみられる対照的な状況にある。

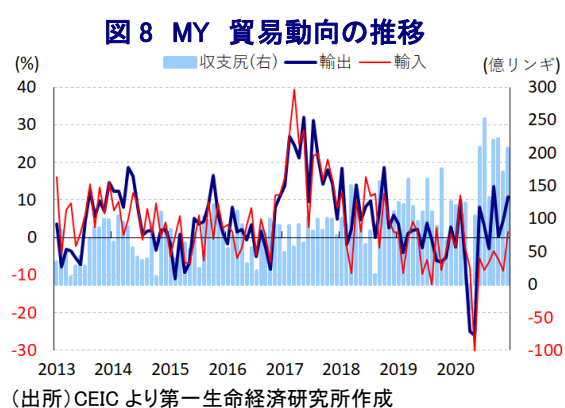
図7 TH 製造業生産の推移



#### [マレーシア]～世界経済の回復期待を背景に輸出の底入れが続くなか、弱含む展開が続いた輸入も底打ち～

29日に発表された昨年12月の輸出額は前年同月比+10.8%となり、前月（同+4.6%）から伸びが加

速した。前月比も3ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向を強めるなど底入れの動きが続いている。鉱物資源関連の輸出に下押し圧力が掛かる一方、主力の輸出財である電子部品関連や電気機械関連をはじめとする製造業関連の輸出の堅調さが全体を押し上げている。国・地域別でも、中国のほか、ASEAN周辺国などアジア新興国向けのほか、米国やEUなど先進国向けも幅広く拡大の動きがみられる。一方の輸入額は前年同月比+1.6%となり、前月（同▲9.0%）から10ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じた。前月比も3ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向に転じており、輸出と対照的な動きが続いてきた輸入に底打ち感が出ている。輸出の堅調さを受けて中間財や資本財関連の輸入は堅調な推移が続いている上、消費財の輸入にも底打ち感が出ており、景気の底打ち期待を反映した動きがみられる。結果、貿易収支は+207.02億リングと前月（+170.53億リング）から黒字幅が拡大している。

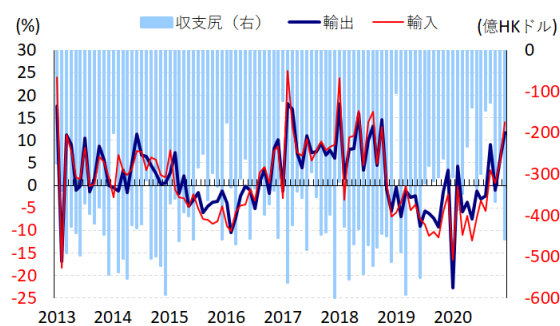


#### [香港]～世界経済の回復期待を背景とするアジア域内での生産拡大の動きを背景に輸出入に底入れの動き～

26日に発表された昨年12月の輸出額は前年同月比+11.7%となり、前月（同+5.6%）から伸びが加速した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ月連続で拡大している上、中期的な基調も拡大傾向を強めるなど底入れの動きが一段と進んでいる。欧米など先進国向けに一服感が出る動きがみられる一方、景気回復が進む中国本土向けのほか、アジア新興国向けなどの堅調さが押し上げ要因となっており、アジア域内における生産拡大の動きが輸出を押し上げている様子がうかがえる。一方の輸入額は前年同月比+14.1%となり、前月（同+5.1%）から伸びが加速した。前月比も4ヶ月連続で拡大しており、中国の輸出の堅調さを反映して保税地域向けの輸入が堅調な動きをみせているほか、原油をはじめとする国際商品市況の堅調さも輸入を押し上げる動きに繋がっている。結果、貿易収支は▲457.31億HKドルと前月（▲256.09億HKドル）から赤字幅が拡大した。



図9 HK 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。